

千年の森便り No.239

2023.9.28

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

9月18日（月祝）天候 晴れ

もうすぐお彼岸というのに真夏の暑さの中での活動となりました。今回は、ニホンジカの生息状況調査、セブナイレブンの助成を受けて購入したポータブルロープウインチの試運転、ナラ枯れ枯死木の伐採、植物調査などを行いました。暑い中ご参加のみなさま、お疲れさまでした。

参加者は、秋元、鶴沢、大原、苅米、坂本、清水、竹下、成沢、福島の会員9名でした。

次回の定例活動日は10月15日（日）、公開行事として秋のきのこ観察会を予定しています。スタッフが必要になりますので、多くの会員のご参加をお願いします。（福島）



○ニホンジカ生息状況調査

豊英島におけるニホンジカの生息状況を把握するため、3か月に1回、年4回の調査を行っています。今回は、2023年度の2回目の調査になります。調査方法は、吊り橋を渡った島の入り口から、7コースに分かれて島内を一斉に踏査し、シカを目撃や足音、声、痕跡を記録して生息状況を把握するというものです。今回の調査時間は、10:05から10:40でした。

結果は、5コースの竹下さんが、広場から禁断の岬寄りの場所で角がないやや小型のシカを1頭目撃しました。センサーカメラでは頻度は少ないものの毎月撮影されているシカですが、この調査では2022年6月以来の目撃となりました。その他の動物の痕跡としては、イノシシらしいラッセルの痕が所々に見られました。（福島）

○ナラ枯れ枯死木伐採など

今回は、ポータブルロープウインチの試運転がメインだったため、作業時間の関係からナラ枯れ枯死木の伐採は1本のみです。

ハンマーで幹を叩きながら腐朽の進行具合を確認しながら、伐倒方向と退避場所を決め、いざ2か月ぶりのチェーンソーでの伐倒作業へ。

作成した「受け口」の水平切り部分を確認すると、向かって右肩下がり。残念なら、バーの先端が下がっていたようです。水平を意識しているつもりですが、なかなかうまくいかないものですね。斜め切りは45度程度、会合線はうまくつながり、「追い口」の作成へ。バーの先端が下がる自分の癖を意識しながら、今度は何とかほぼ水平に切れたと思います。腐っている木なので、作業中の振動による枯れ枝落下や「追い口」の深さに気を配りながらの慎重な作業となります。わずかに「追い口」が開き始めた（＝木が傾き始めた）ことを確認し、退避行動へ。なんとか予定していた方向に倒すことができました。



伐採後に受け口と追い口を確認する成沢さん

今回倒した木とは別に、前回「かかり木」になった木は、安定状態にあるようだったため下手に動かさず、そのままにしました。周囲を「立ち入り禁止」にして、自然に倒れることを待つのも対応方法の一つですね。

話は変わりますが、島内の広場でスズメバチに遭遇しました。どうやら私が巣に気が付かずに近づいてしまっていたようです。警戒行動をとる1匹のハチと目が合いました(笑)。確認すると単眼が3つ、胸部は黒くてサイズは3cm弱であり、コガタスズメバチだと思われます。スズメバチの攻撃性は秋頃から増すようなので、今後はますます注意が必要ですね。(成沢)



コガタスズメバチ

○新兵器ポータブルロープウインチ PCW4000

セブンイレブンの助成金でポータブルロープウインチ PCW4000 を購入しました。牽引力は1 ton と力強く、ナラ枯れ枯死木の伐採や材の移動に活躍してくれそうです。この機種は、従来の機種になかった遠心クラッチが付いており、使いやすくなった半面、ネットの情報では壊れやすい部分もあるようです。使い方に習熟し、安全第一で、大切に、有効に活用していきたいと思います。(福島)



○ポータブルロープウインチの試運転

シカ調査後は、ポータブルロープウインチの試運転をしました。

新品の機械を今回初めて使用するという事で、あまり高負荷な作業をしないように心がけつつ、軽めの材を近距離に限定して集材してみました。機械の操作のほか、合図者との連携や適切な荷かけ、滑車の内角には立ち入らない等、安全作業に必要な基本事項の再確認もでき、人間側の慣らしという意味でも大変有意義でした。今回は、敢えて機械の本領を發揮しませんが、それでも短時間で多くの材を集めることができました。

今後、集材にあたっては、「とび」で材を操作する補助者がいると、もっと効率が良くなると思います。ともあれ、引き続き安全第一で作業をしていきたいと思っています。

なお、本体のエンジンは刈り払い機についているものにそっくりですが、混合ガソリンではなく、生ガソリンを使用します。給油の際には要注意です。とりあえず、本体の見えやすい箇所に「レギュラー」と書いたステッカーを貼っておきます。(竹下)



試運転で集材作業

○ウインチによる集材作業に立ち会って(感想)

携帯用エンジン式ウインチの試運転ということで、成沢さん、竹下さんらが行う様子を興味深く拝見し、私でもできる作業のお手伝いをしました。いままでのチルホールは近寄りがたい雰囲気です。習熟も容易ではない感じでしたが、今回導入したポータブルロープウインチは、牽引ロープのセットもエンジンの始動も比較的容易で機械オンチの私でも使えそうな感じでした。

とりわけ感心したのはスキッドコーンです。初めて見る代物でしたが、スキッドコーンをかぶせることで木材を牽引する際に運搬路上にある根や塊などの障害物をたくみに避けてくれる優れものでした。強化プラスチックで出来た黄色い楕円形の形状はキノコの傘を彷彿とさせ、とてもユーモラスです。セットも簡単でロープウ



スキッドコーンを使って集材

インチとの組み合わせで作業効率が格段に高くなることを実感しました。

これは余談ですが、ロープウィンチはコンパクトな造りで背負子に簡単に載せられるので、山岳遭難の救助作業でも役立つのではないのでしょうか。この世界もどんどん良いアイテムが登場しているんだなと改めて思いました。(清水)

○謎の穴

シカ調査で歩いたコースに謎の穴が数か所ありました。砂浜で子供が戯れに手で掘ったくらいの深さですから約20センチです。間口も同程度でした。何かの動物の仕業と思いますが、その正体は？です。

アナグマは巣穴を掘るでしょうが、それにしても浅過ぎます。イノシシが掘り返した跡はトラクターで耕したようになりますからそれとも違いそうです。秋元さんのセンサーカメラで謎解きができるのを期待しています。(坂本)



謎の穴

○カエントケは不発

何かと話題になるカエントケですが、まだ実物を見た事が無い人が多いようです。写真を撮りたいと思い、島内を徘徊しましたが不発に終わりました。その他のキノコもぼつぼつ出ているだけでした。大発生は来月のキノコ観察会まで温存されているのだと思ひましょう。(坂本)

○9月の植物とキノコと虫

コナラ伐採地で新たに咲いた花は、タラノキ、オケラ、ヤマハギです。タラノキには数種類の虫が蜜を求めやってきていました。羽音が大きいクマバチは離れていてもよくわかります。ヤマハギも満開となっていました。キチョウの仲間は、忙しく2匹でけん制しあうように飛んでいました。アキノタムラソウに止まったところを撮影しました。オトコエシ、シロヨメナは今盛りと花数を増やし、大きなカマキリは獲物を求めてか、ここに一匹いました。オケラは一輪のみ開花し、たくさんの蕾をつけていました。ナガバノコウヤボウキもこれからが楽しみになるほどの蕾をつけていました。ヤマノイモは扁平な丸い翼を3つ付けた蒴果を着けていました。保護柵のすぐ外側ではゴンズイが赤い実を着けていました。



タラノキとクマバチ



ヤマハギ



キチョウの仲間



オケラ



シロヨメナ



カマキリ



ナガバノコウヤボウキ



ヤマノイモ

散策路にはヤマボウシやアズキナシの実、コナラ、アカガシのどんぐりがあちらこちらで見られました。帰路のつり橋からはモミの木の頂に球果がたくさん着いているのが確認できました。

ホテイ岬に向かう途中、トゲアリの巣と思われるスギの洞を見つけました。幹の根元には木くずがスカート

広げたようにきれいな円錐状をしていました。アリの数は少ないですが洞の隙間から時々アリが木くずを運びだしてました。トゲアリは一時的社会寄生という方法でクロオオアリの巣を乗っ取るとの記事を見たことがあります。この巣がその巣なのかは不明ですが興味深い習性をもったアリです。ずっと観察したかったのですが時間の都合で断念しました。



ゴンズイの赤い実



ヤマボウシの実



アカガシのどんぐり



秋の恵み



モミの球果



トゲアリの巣



トゲアリ



きのこのツバ（内被膜）

キノコのつばで変わった写真を撮ることができました。つばになる前はひだの下の部分を膜で覆っています。ちょっとした拍子にこの膜が破れ膜の中を見ることができました。この膜を内被膜というようです。これは幼菌の時に子実層托を覆って保護する為の膜のようです。柄とひだが現れて、つばができる過程がわかったように思います。(秋元)

○センサーカメラの動物たち

キョンとハクビシンが数多く記録されています。ニホンジカは1日と今回も少ないです。2頭一緒にいるキョンが再度記録されました。ニホンザルは久々に子ザルを沢山連れた集団が記録されました。(秋元)

設置期間：7月17日～8月20日（日数は確認した日数で、同じ日に複数回記録されても1日としている）

CAM1：吊橋着岸点付近

ハクビシン 9日 夜間 タヌキ 2日 夜間

アナグマ 1日 夜間 アライグマ 1日 夜間

キョン 8日 昼間・夜間 ニホンザル 2日 昼間

ニホンジカ 1日 昼間 不明 3日 夜間

CAM2：ホテイ岬への分岐点付近（カメラ操作手違いのため記録なし）

CAM3：ホテイ岬先端付近

ヤマガラ 1日 昼間 ヒヨドリ 1日 昼間



キョン 2 頭



ニホンザルの群れ



ハクビシン

〇きのいろいろ



タマゴタケ



ハカワラタケ



キクバナイグチ



オニイグチ



ウスヒラタケ



ヤマドリタケモドキ



アメリカウラベニウロガワリ?



シロオニタケの仲間

〇尾瀬のふもとに「ちば千年の森をつくる会」の名前が響く

9月2～3日に、鶴沢、伊藤の二人で尾瀬のふもとの桧枝岐歌舞伎に出かけました。10数年続く恒例で、当会会員にもかつて参加された方がかなりいます。

数年前に新井孝雄会員から「花をつける」ことを教えてもらい、それ以降わずかずつ出し合って、ちば千年の森をつくる会の名前で寄付をしています。歌舞伎が始まる前のざわめきの中、寄付者の名前がアナウンスされ、福島新聞とか福島ラジオといった企業と並んで「ちば千年の森をつくる会」の名前が夜空に響く独特の雰囲気味わってきました。(伊藤)

お知らせ

〇次回の定例活動は10月15日(日)です。

10月はきのこシーズン本番ということで、8月に続き中央博の吹春先生をお迎えして恒例の秋のきのこ観察会を開催します。

集合場所は県民の森事務所下の駐車場、集合時間は9時30分です。

いつもとは集合場所が異なりますのでご注意ください。

今回は公開行事となりますのでスタッフとしてご協力をよろしくお願いします。

ヤマビル、ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。